語らずして、相手に考えさせる存在

当 HP の「論説　ナチ《安楽死命令》とベーテルの抵抗を読んで（「雑学」バックナンバー「書籍等読後感関係（Ⅱ）」P、2005.09.04.：参照）」を目にしてくれたメル友から、次のようなメールをいただいた。

【　折しも私は今年度になり、「人間とはいかなるものか」を知りたく「夜と霧」を再読致しました。そして、ＴＶも見ました。

自分の中では、極限状態においての人の有り様と信念について、とても知りたいものがあります。ＨＰも興味深く読みました。

実際に、やっている人がいる。では、自分は・・・。とても、大きな重い課題です。】

厚かましく、次のように返信した。

【　「人生の意味は、他人が人生の意味を考える手伝いをすること（フランクル：夜と霧）」の記載があったと思いますが、こうした観点に立つと、人は存在するだけでも周りに影響を与えています。

障害児の親から「この子のお陰で生きることの意味を知った」というようなことをよく聞きますが、つまり、どんなに障害、症状が重い障害児であっても、存在理由はあるということ。語らずして、相手に考えさせる存在、この子たちは凄い存在と思っています。

それに比べ、私のように厚かましくしゃべり続け、HP 上でも煩く発信し続けても、なかなかお手伝いするまでに至っていません（このメールのように、むしろ「静かに考える上で煩い！」と思われているかもね、m(_ _)m）。

クリスチャンの方は、神と向き合うことで自らの人生の意味を考え続けているよう。

こうした意味では、この子たちは神のような存在に近い存在かなと思っています。

言い換えれば、この子たちは福祉の対象、支援の対象というような受け身の存在ではなく、我々に対して、本質的には能動的な存在かもしれませんね。

正に、生きようとすることを互いに輔け合う関係を意味する「相互輔生」ですよね。

また、（想像するしかないのですが）極限的状況に置き換えて考えると、もの事の本質が見えてきます。

私の HP のフロント P の最初に「複雑、多様と思われがちな政治、世相、教育、福祉、等々の問題を、出来るだけ簡単、明瞭、明快に見つめ、人間、社会についての基本的事柄を次世代と共に考え、また、次世代へメッセージを発信できればと思っています。」と記しているのも、こうした意味からです(^_^)/~。　】

（2005 年 9 月 7 日　記）